

経済学部学生プロジェクト「なえどこ」 内閣府主催「第3回地方創生☆政策アイデアコンテスト」 最優秀賞（地方創生担当大臣賞）を受賞

小豆島 × 迷路民泊 × 空き家 空き家が島の宝に!? 迷路民泊を起点とした観光振興で 小豆島がもっと元気に!!

わたしたち「なえどこ」は、財務省四国財務局地方創生支援のための若手プロジェクトチーム(若手PT)のみなさんのご支援をいただきながら、内閣府主催の地方創生☆政策アイデアコンテスト2017への準備を進めてきました。

小豆島で増えている空き家を、民泊として活用することで、小豆島の魅力をたくさんの人に知ってもらい、小豆島がもっと元気になることを考えたアイデアです。全国から900を超える応募のなかで、大学生以上社会人部門にて地方創生担当大臣賞をいただけたことは、大変光栄なことだと思っています。

素晴らしい賞をいただけたことももちろんですが、当日の10組のファイナリストの方々や、前年のコンテストで大臣賞を受賞したチームの方々のプレゼンを聞き、自分たちの地域のこれからは熱心に考えている小学生や高校生、大学生や社会人の方々がこんなにもいらっしやるということに、胸が熱

くなりました。当日、わたしたちのプレゼンをみるためにいらしていただいた土庄町役場の方や(オリーブのリースまで手作りしていただきました!）、様々なアドバイスや激励のお言葉をかけていただいた先生や社会人の方々、ニコ生中継で応援してくれた方々、そして本当に多くのことを教えていただきました四国財務局の若手PTのみなさんには感謝でいっぱいです。

今後の活動について

四国財務局と土庄町共催の報告会で、アイデアを対象地域の関係者の方々にお話しする機会を頂いております。各分野の見識者による、民泊新法の概要や空き家対策・観光の現状や愛媛県内子町の事例等の講演を踏まえて、実現可能性について考えていきます。今回のコンテストに出場し、賞をいただいたことで、メディアにも取り上げていただき、多くの人に「小豆島」「空き家」「民泊」というキーワードが知られるきっかけになり、また、以前からその課題について考えていた方々が集い、協働するきっかけになれたのではないかと思います。

(地域連携学生委員会なえどこ 高橋このみ)

政策アイデアコンテストは、RESAS(リーサス)という、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局が提供している産業構造や人口、人の流れなどのデータがわかるウェブ上のシステムを使って、自分たちの地域を分析し、そこから地域を元気にするようなアイデアを募集しているコンテスト。https://resas.go.jp



地域連携学生委員会なえどこは「地域で働く」をテーマに、講演会やワークショップを通して、学生の学びの場をつくらせている団体です。今回の提案に携わったのは、(写真左から)多田安里、杉山愛美、高橋このみ、芳原辰祐。

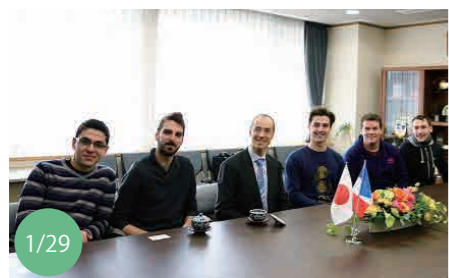


高松港から小豆島・土庄港までフェリーで約60分
高速艇で約35分

「迷路のまち」をフィールドワーク
50戸程度の空き家を確認



EVENT PHOTO



在京都フランス総領事 ジャン・マチューボネル氏が学長を表敬訪問

筑学長、徳田副学長、ロン留学生センター長が出迎え、総領事館や関係文化機関の活動の紹介、本学における国際交流などの情報・意見交換が行われた後、工学部に留学中のフランス人学生(写真)も加わり、活発な意見交換が行われました。



学生表彰(学長表彰式) 工学部 造田愛永さん

第72回国民体育大会のウエイトリフティング競技で、合計記録のトータルで4位に入賞。第9回全日本女子選抜ウエイトリフティング選手権大会の一般の部63kg以下級で、トータル188kg(スナッチ85kg、ジャーク103kg)で優勝。



「Asia University Rankings 2018」 香川大学が175位にランクイン

世界で最も影響力のある大学ランキングといわれている「THE世界大学ランキング」にエントリーした大学について、その地域の特性に依りて算出方法を調整してランキングしたもの。175位は、日本国内の大学では25位に相当。

「空き家が島の宝に!」 迷路民泊を起点とした観光振興で 小豆島がもっと元気に!!

●小豆島とは
日本の地中海と呼ばれる瀬戸内海に浮かぶ島。土庄町・小豆島町の2町から成り香川県に属する。面積は20余の島島を含め、169.86km²(日本で19番目に大きな島)。人口は28,864人(2015年)。食品製造業が主要産業であり、佃煮、醤油、そうめんなどが特産物。温暖少雨の瀬戸内海式気候。1908年に初めて持ち込まれたオリーブの木が、国内で唯一根付いたと言われている。その多島美が高い評価を受けており、国内外から毎年100万人を超える観光客が島を訪れている。小豆島は四国随一の観光資源。観光産業を振興することに島の活性化の可能性が。

●小豆島の産業分析
食品製造業、宿泊業は付加価値額特化係数が高水準。従業者数は、緩やかに減少傾向であったが、宿泊業では瀬戸内国際芸術祭の開始(2010年)以降、若干持ち直している。宿泊業を含む「対個人サービス」の影響係数は1.1を超え、売上増加による他産業への波及効果は大きい(特に、食品産業の感応度係数は1.3超と高水準のため、受ける効果は大)。

●外国人観光客の訪問・宿泊
香川県へのインバウンドは、高松空港の国際定期路線の新規就航及び各路線の増便の影響や、3年に一度開催される瀬戸内国際芸術祭の効果等により、外国人訪問者数・宿泊者数が急上昇。高松空港への直通便のあるアジア州(中国・台湾・韓国・香港)からの訪問が多数占める。外国人訪問者数に対して、延べ宿泊者数(人泊)が大きな伸びを見せており、宿泊日数が増加していることが伺える。また、とくに「簡易宿所」の割合が14.4%と全国値(2.9%)よりもかなり高い。

●小豆島の外国人観光のポテンシャルと課題
瀬戸内国際芸術祭は総来場者数が100万人を超える一大イベント。高松市内や芸術祭開催中心地の直島へ多くの外国人観光客の訪問があり、小豆島にも芸術祭開催期間外も含め多くの訪問がある。現代アートが主な魅力と認知されている直島に対して、小豆島は伝統文化や自然といった魅力を有し、こうした魅力を訴求することで更に観光客呼び込める可能性。小豆島の外国人夜間滞在人口は昼間人口の3-4割台。すなわち、訪問外国人のうち、3分の1程度しか宿泊しておらず、これは高松

市内(6-7割台)と比較するとかなり低い。

●現状分析で見えてくる小豆島の強み・課題
近年香川県を訪れる外国人観光客が急増する一方、外国人観光客が志向するビジネスホテルや簡易宿所(ゲストハウス等)などの宿泊施設が島内に少なく宿泊需要を十分に取込めていない可能性。人口減少に伴い、島内の空き家が増加しており、空き家を活用した民泊事業を振興することで、外国人観光客の需要に応えることができるのでは。

●民泊とは
近年、住宅(戸建住宅及び共同住宅)を活用した宿泊サービスを提供する「民泊サービス」が注目。「民泊サービス」は、海外における事例の増加や市場規模の拡大に加え、日本においても急増する訪日外国人のニーズへの対応を中心として利用が急増中。民泊仲介大手のAirbnb(エアビーアンドビー)社が発表したAirbnb利用の訪日外国人は、2016年に約370万人を超えた。同年の訪日外国人は2,403万人であり、Airbnb利用者が約15%を占めている。

●小豆島には民泊を活用した観光振興を行える素地がある
訪日外国人のうち民泊体験者の訪日動機は約8割が観光。また、民泊体験者が日本の宿泊施設に求めるものトップ5は、Wi-Fiなどの整備、低価格、日本文化の体験、英語対応、観光施設へのアクセス。小豆島では、瀬戸内国際芸術祭等を契機とし、外国人観光客対策を推進しており、かがわWi-Fiやウェルカムサポーターなどの整備も進む。また、日本文化の体験が可能な小豆島廻路や数々の文化財に加え、自然の観光資源が凝縮された小豆島は外国人にとって魅力的。さらに、小豆島廻路の時代から続く島民のおもてなしの心は唯一無二の財産。これらの掛け合わせは島を訪れる外国人観光客への最高の訴求材料。

●「迷路のまち」にある空き家を民泊に活用
土庄町の中心部(土庄港から徒歩15分)の複雑な路地から形成される周囲約2.4kmの個性的な町並みは、海賊等から島民の生活を守るため意図的に造られたと言われ、「迷路のまち」と呼ばれる。「迷路のまち」周辺には観光スポットや小豆島の特産物を味わえる日本料理店のほか、各種飲食店、スーパー、コンビニ、ドラッグストアなどが点在。また、小豆島の入口である土庄港(小豆島への観光客の半数以上が利用)から徒歩15分という立地や日本家屋が残る町並みは宿泊者にとって大きな魅力。さらに、相当数の空き家も存

在。民泊に活用できる空き家がないかフィールドワークを実施。

●空き家を活用した「迷路民泊」をモデルケースに
「迷路のまち」をフィールドワークした結果、「迷路のまち」に50戸程度の空き家を確認。うち40戸以上は修繕なしで利用できる状態で、民泊事業を開始する際の初期費用を抑えることができる。修繕の必要のない空き家を中心に活用することで、「迷路民泊」の事業化が可能では。スキームを整備し、民泊×空き家による観光客誘致策のモデルケースとして国内外に発信できないか。

●迷路民泊を起点に島の観光資源等と接続
迷路民泊を起点として島内連携を進め、民泊利用者に一括受付施設で飲食店、観光施設、アクティビティ施設等を紹介することで、他産業の振興につながる。例えば、宿泊者が「迷路民泊からの挑戦状」に取り組むことで、迷路のまち内の消費が活性化。また、課題達成の特典を小豆島の観光施設への入場券やアウトドア体験チケット等とすることで、小豆島全体の地域活性化につながることも観光客の長期滞在を促進することが可能では。

迷路民泊からの挑戦状

- 1 宿泊物件を発見
- 2 迷路のまち内の飲食店で食事
- 3 農業等、住民の生活体験イベント参加
- 4 土洲海峡横断証明書を入手
- 5 尾崎放哉記念館入館
- 6 MeiPAM 謎解きをクリア
- 7 迷路のまちの写真をSNSで発信
- 8 指定のマンホールを発見
- 9 週1回開催される蚤の市で商品購入
- 10 空き家を活用したイベント参加

●迷路民泊がもたらす小豆島の未来
迷路民泊を外国人観光客が中心として利用し、「迷路民泊からの挑戦状」に取り組むことで他産業も含めた地域経済の活性化が促進される。また、迷路民泊の仕組みが普及することにより、民泊に対する受け入れ側の心理的障壁が取り除かれ、島内他地域でも民泊が普及。空き家の解消につながることも、国内外からの観光客数が増加し平均滞在日数・消費額が伸びるなど更なる地域経済の活性化が期待される。さらに、民泊が日本人観光客にも普及し、小豆島住民との触れ合いや住民と同じように生活することにより地域の魅力を肌で感じることで、移住を決定する人たちが増加。人口減少の抑制につながる。「空き家」を活用した「迷路民泊」事業を推進することで、「小豆島」がもっと元気に!!

EVENT CALENDAR

■合同企業説明会バスツアー

対象学部：全学部
対象学年：3年次、院1年次(主として)
開催日：3/2(金)
開催場所：インテックス大阪
問合：就職支援グループ
電話番号：087-832-1157

■合同企業説明会バスツアー

対象学部：全学部
対象学年：3年次、院1年次(主として)
開催日：3/13(火)
開催場所：広島大学西体育館
問合：就職支援グループ
電話番号：087-832-1157

■【経ゼミ連主催】学内合同企業説明会

対象学部：全学部
対象学年：3年次、院1年次(主として)
開催日：3/5(月)～3/8(木)13:00-16:30
開催場所：オリーブスクエア多目的ホール
問合：就職支援グループ
電話番号：087-832-1157

■【経ゼミ連主催】学内個別企業説明会

対象学部：全学部
対象学年：3年次、院1年次(主として)
開催日：3/15(木)～3/16(金)10:00-17:50
開催場所：経済学部E22講義室、E32講義室
問合：就職支援グループ
電話番号：087-832-1157

ご参加
お待ち
しています

